

2022年度「次世代改善リーダー事例研究会」のご案内

<出る杭にならない次世代型リーダーシップ ～あなたの自治体固有の特徴を理解しよう>

特定非営利活動法人 自治体改善マネジメント研究会

1 「次世代改善リーダー事例研究会」の目的とめざす成果

コロナ禍も早3年目。五月雨式に発表される国の臨時施策の数々にも、スピーディーかつ市民目線に立った事業実施方法を編み出した自治体事例がいくつも登場してきています。いずれの事例にも共通するのは**躍動する「若手職員」の存在**です。しかし一方で、優秀な若手職員が民間企業へ転職してしまう事例も相次いでいます。彼らは、下記のような悩みから自治体職員を「諦めてしまう」のでしょうか。

- 担当業務の改善アイデアを思いついても、同僚の協力が得られない。
- 改善提案を具申すると上司や先輩に「面倒臭い奴」「余計な仕事を増やしやがって」と嫌われそうで言い出せない。
- 改善提案を具申しても真剣に取り合ってもらえず経営幹部まで提案が届かない。
- 業務ツールの改善や開発を行なって組織に貢献しているのにそのことが人事評価に反映されていない。

昨今では、卓越した成果から著書を出版する自治体職員が増えてきました。彼らの華々しい活躍を見ると「次は自分だ!」と奮い立ちます。しかし、彼らのアクションをそのままパクっても、**所属する自治体の特徴が異なれば得られる成果は同じになるとは限らない**のです!そこで、本研究会では、自治体固有の特徴にフォーカスした「次世代改善リーダー事例研究会」を新設します!

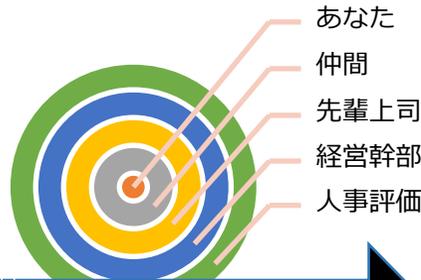
めざす成果は、－5年後に改善の旗手となるためのアクションプランを描くこと!

若手職員の立場から一足飛びに成果を出すのは、卓越したスキルを有していない限り至難です。しかし、自治体固有の特徴を紐解き、自身の行動の効果を最大化することができれば、「出る杭」になることなく自身の活動の理解者、支援者を増やし拡げていくことができます!

【めざす成果】①身近な仲間を巻き込める②先輩上司を支援者に変える③経営幹部に提案が届く④改善活動が人事評価に反映される

各自治体固有の特徴を紐解き、自分たちでめざす姿を描きます。

- ☑ 同僚の協力が得られない
- ☑ 嫌われそう改善提案ができない
- ☑ 経営幹部に提案が届かない
- ☑ 改善活動が人事評価に反映されない



- 身近な仲間を巻き込める
- 先輩上司を支援者に変える
- 経営幹部に提案が届く
- 改善活動が人事評価に反映される 等

出る杭にならず巻き込んでいく

2 対象者

孤軍奮闘に限界を感じているが周りにどう働きかけていいのかわからない、組織に問題意識を持っている20～30代の自治体職員。

※定員10名（最大6自治体、複数名のチーム参加も可能）

3 活動期間と内容（案）

①活動内容 約半年間であなたのまちの特徴を把握し、先輩改善リーダーの活動事例から、自分だけのアクションプラン（時点版）を描きます。アクションプラン（時点版）作成から半年後にフォローアップし、さらに半年後のアクションプラン（完成版）につなげます。

②日程 2022年7月～12月に6回、翌2023年6月と12月に各1回、合計8回のWEB会合を開催します（月1回、各回3時間程度）。

7/24 (日) 9:00	第1回 事前アンケートに基づくジブンガタリ あなたのまちの特徴を知る①
8月	第2回 あなたのまちの特徴を知る②
9月	第3回 あなたのまちの特徴を知る③
10月	第4回 先輩改善リーダーから技を盗む①
11月	第5回 先輩改善リーダーから技を盗む②
12月	第6回 アクションプラン（時点版）の発表
6月	第7回 フォローアップ～軌道修正
12月	第8回 アクションプラン（完成版）の発表

※1 2回目以降の日程は参加者と調整します
※2 状況に応じ対面での会合も検討します

各回ごとに次回に向けた準備内容・方法を確認します。
また、**各自が現在ぶつかっている壁についても、随時メンバー間で共有し、乗り越え方について検討します。**

+アクションプラン作成個別支援

③活動方法 会合は、「オフサイトミーティング」の対話形式で行い、本音を語り合い、考え深めます。
※講義に基づく研修ではなく、参加者が自分たちで段階を踏んで課題と解決策を考え出す研究活動です。

④ナビゲーター 田中 広毅（自治体改善マネジメント研究会副理事長、三重県松阪市職員）
アドバイザー 元吉 由紀子（自治体改善マネジメント研究会代表理事、行政経営デザイナー）

4 参加料 1名あたり10,000円 ※研究会テキスト書籍(『自治体経営を変える改善運動』『新改善本(9月発売予定)』)代を含む。

5 申込・問合せ先 特定非営利活動法人自治体改善マネジメント研究会事務局 E-Mail jichitai.kaizen@gmail.com

6 活動イメージ



※2020 チーム経営研究会オンライン会合の様子

「次世代改善リーダー事例研究会」では、自治体改善マネジメント研究会の会員もオブザーバーとして参加し、みなさんと意見交換を行う予定です。

STEP 3

・現場での実践&フィードバックによるアクションプランの修正

アクションプランが完成し、半年に及ぶ研究会も終了…いえいえ、プランは実践してナンボです。実践してみると机上と現実のギャップが見えてきますから、恐れずにアクションプランを軌道修正しましょう。「次世代改善リーダー事例研究会」は、アクションプラン完成から半年後、1年後の2回フォローアップがあります。気の置けない同窓たちや自治体改善マネジメント研究会の既存会員と一緒に、あなたのアクションプランを改善しましょう！

【会員募集】 これからのキャリアステージで待ち受ける課題を自治体改善マネジメント研究会の仲間と一緒に解決しませんか？

自治体改善マネジメント研究会では、全国の自治体が本来能力を発揮し、地域ビジョンを実現していくことをめざして、これまでの研究成果をノウハウに昇華し、事例研究会をはじめとする自治体支援事業やセミナー、情報発信等を行っています。また、会員同士で定期的に近況を共有し、困り事があればみんなで解決策を検討します。つまり、私たちの活動を端的に言えば、「自分達が直面している課題の解決法を研究し、それをノウハウ化して広く提供すること」なのです。誰かが直面している課題を研究することは、今後自分や自分の同僚、そして全国の自治体職員が同じ課題に直面した時の備えになります。

2022年度「次世代改善リーダー事例研究会」に参加いただく方は、同年度中のセミナー等にもご参加いただけますので、積極的に活用いただき、是非次年度以降の会員加入をご検討ください！

※自治体改善マネジメント研究会の活動詳細は、[ホームページ](#) 又は [Facebook](#) をご覧ください。

STEP 1

・月1回オンライン会合（左図参照）に参加し、自治体組織の経営における特徴を解明する

いきなりハードル高すぎ？ どうぞご安心ください。ナビゲーター、アドバイザー、他の参加者と話していくうちに自身の所属自治体の経営の特徴を「虫の目、鳥の目、魚の目」で分析できるようになってきます。

STEP 2

・自身の所属自治体の経営の特徴から、自己実現を続けていくためのアクションプランを見出す

自治体組織は、一朝一夕に変えられるものではありません。でも、まちに愛着があって、もっと良くしたいと思うからあなたはこの研究会に関心を持っているはず。その心の灯に薪を焚べ続け、キャリアステージや時流の変化をうまく利用して仲間を増やしていく、あなただけの処方方を見つけましょう！